

FCT 12 月フォーラム

東日本大震災とメディア・リテラシー Part2

東日本大震災は、すさまじい地震被害・津波被害にとどまらず東京電力福島第一原発では、炉心溶融・水素爆発をもたらしました。それから9ヶ月。原発事故による大量の放射性物質の拡散による健康被害への不安、故郷を離れることを余儀なくされた避難者問題、賠償問題などどれ一つとっても問題は山積しています。わたしたちは震災以降、市民の視座からメディアを見つめてきました。原発事故の影響も津波による被害も「復興」とは言い難いにも関わらず、メディアを通して語られる「復興」。「除染」「冷温停止」などのキーワードで語られる原発事故処理など、わたしたちがメディア報道をクリティカルに分析することはますます求められています。

今回は、福島大学・後藤忍研究室（理工学群共生システム理工学類）とともに、「震災半年の日」のニュース報道分析、あわせて「原発政策」に関する市民意識の形成について報告と討論を通して、わたしたちの「現実」がどのようにして形づくられてきたのか、ともに考えていきたいと思えます。

日時：2011年12月10日(土) 13:30~16:30 (開場：13:00)

会場：万国橋会議センター4階特別会議室 (横浜市中区海岸通4-23)

(地図) http://www.y-port-kousei.or.jp/new_page_30.htm

参加費：2,000円 (資料代含む、FCT会員・学生は1,000円)

定員：30名 (定員に達し次第申込み受付終了)

申込方法：Eメールまたはファクス

申込先：NPO法人 FCT メディア・リテラシー研究所

E-mail：info@mlpj.org

FAX：0466-81-8307

〈プログラム〉(予定)

第1部 「震災半年の日」ニュース報道

- ・ 9.11 各局ニュース報道 分析

— 「今日一日のドキュメント」を手がかりに

FCT メディア・リテラシー研究所

- ・ 9.11 各局ニュース報道 分析

— エネルギー政策に着目して 佐藤 幸野 (福島大学4回生)

第2部 原発政策に対する市民の意識形成

- ・ 原子力教育および広報についての状況報告 (日本とドイツ)

後藤 忍 (福島大学教員)

- ・ 「原子力の日」記念小論文コンクール受賞作品の分析から

鈴木 伸裕 (福島大学4回生)

- ・ 福島県原子力セミナー参加者の感想文の分析から

佐々木 翔 (福島大学4回生)

討論